



「旅とまなび協会」を立ち上げた飯野 智子さん(54)

「これは人生100年時代で、仕事や子育てが終わった後の時間は長い。新型コロナ禍でのテレワークの推進などで、働き方も昔とは変わっています。そうした中、自分の時間をどう生きたいか、いいのか、不安を感じていた」

(鹿内朗代)

「旅とまなび協会」を立ち上げた飯野 智子さん(54)

「旅とまなび協会」を立ち上げた 飯野 智子さん(54)



いいの・ともこ 1967年生まれ。88年、ホテルオークラ(現ホテルオークラ東京)入社。2020年にフェイスアップの本社を東京から函館に移転。21年3月に知人と「旅とまなび協会」を設立し、代表理事に就任した。公立はこだて未来大、大東文化大の非常勤講師も務める。

日常離れ中高年が一步

「これからどうしよう」「何か始めてみたい」。そんな気持ちが生えてくる中高年を主な対象に、キャリアカウンセリングやさまざまな体験を組み合わせた旅を提案します」

——具体的に。

「今までの人生を振り返り、自分が大切にできたこと、本当にやりたいことを思い出し、してもらいます。その上で、例えば写真が好きなら、函館のカメラマンに撮影を習ったり、写真に添える文章の書き方を学んだり。カフェが好き

「旅でなくてもできそうですが。」

「地元では恥ずかしくてできなくても、旅先ならできるということ、ありませんか。旅は日常を離れる機会です。この旅をきっかけとして、地元に戻ってから学び続けるの

「出身は東京ですね。」「ホテルオークラ東京に16年間勤めており、2003年に退職後、国内各地の宿泊施設に活動を見つけて修正したいです」

「新型コロナウイルスの状況次第ですが、夏の終わりがころまでは50代以上を対象にしたモニターツアーを実施予定です。そこで課題を見つけて修正し、来年には活動を本格化させたいです」

「風土という言葉があります。函館で生まれ育った人が『土』だとすると、私のような外から来た人間は『風』に例えられるかなと。函館出身者にはなれないので、その代わりとっては何ですが、町のために吹く風の役割を果たしたいと考え、フェイスアップの本社も函館に移しました。地元出身ではないからこそ、魅力を感じることとたくさんあります。新たな旅の提案で、多くの人がとって、函館を繰り返し訪れたい場所」にできたらいいなと思っています」

「いわゆる『よそ者』ですが、だからこそ感じることもあります。」

「風土という言葉があります。函館で生まれ育った人が『土』だとすると、私のような外から来た人間は『風』に例えられるかなと。函館出身者にはなれないので、その代わりとっては何ですが、町のために吹く風の役割を果たしたいと考え、フェイスアップの本社も函館に移しました。地元出身ではないからこそ、魅力を感じることとたくさんあります。新たな旅の提案で、多くの人がとって、函館を繰り返し訪れたい場所」にできたらいいなと思っています」